

第26回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成24年3月21日（水） 18時から20時
- 3 場所 川崎市役所 市民・こども局会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（会長）、垣内委員（副会長）、野畑委員、渡辺委員、城谷委員、岩森委員、高田委員、猪口委員（欠席：林委員）
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
中島室長、町田課長、広岡担当係長、沼田職員
- 5 議題
平成23年度文化アセスメント評価書の方向付け
 - ①岡本太郎美術館について
 - ②ガラス工芸振興事業について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員8名の出席により、会議が成立した旨を確認。澤井会長に議長をお願いします。

議長 本日は、H23年度文化アセスの2事業について、各委員から報告書の原案が提出されている。まず岡本太郎美術館について、事務局から説明をお願いします。

事務局 事業目的や芸術性、効率・効果など、全12項目（各4点満点）の評価点は、行政側の評価が44点、委員の平均が34.0点と開きが出た。委員内部でも、市民委員（猪口委員）が一番辛い点で14点となっている。評価点はあくまで参考だが、A継続、B改善、C見直しの3段階では、B改善の評価となる。

自由記載欄については、論点を10に絞って作成した。固定ファンもあり、岡本太郎美術館の活動を一定程度評価する記述も見られたが、TARO賞の活用方法を含め、今後の美術館の方向付けをどうするのかという指摘があった。

その他に、生田緑地全体の指定管理、商店街や地域との連携、ワークショップやアウトリーチ活動の一層の推進、などの論点がある。また、美術館としての目標設定やPDCAサイクルを意識した取り組み、アンケートの積極活用など、組織運営上の課題についても厳しい指摘があった。

なお館へ確認したところ、太郎賞受賞作品の購入については、現代芸術作品の巨大化傾向もあって、収蔵庫の問題があり難しいとのこと。ただ、受賞者との連携は考えているようであった。また、太郎生誕100周年を終え、今後どのような方向で館の性格付けを行っていくのかについては、現在館内で検討中とのことであった。

高田委員 村田館長へのヒアリングは実施したのか。

事務局 文化アセスでは実施していない。村田館長は退職の予定で、4月に新しい館長を迎える。新館長には、館の新たな方向付けなど、これまで手がつかなかった分

野での活躍を期待している。なお、村田館長には名誉館長として残っていただくようお願いしている。

議長 評価書・意見書を出していただいた委員からコメントを。

岩森委員 館が商店街など、地域に貢献することを期待したい。ただ、バス便をはじめ、アクセスの悪さは何とか改善して欲しい。太郎生誕 100 周年は、岡本太郎を上手く活かしていたと感じる。

野畑委員 TARO 賞の賞金（200 万、100 万、50 万円）は、佳作にもいくらか回しても良いと感じた。授賞式の審査員講評は、かなり内輪的な雰囲気では気が悪かった。受賞者に応募回数を聞くなど、音楽コンクールではありえない。

高田委員 TARO 賞授賞式における川崎市の立ち位置が不明確、かつ存在感が希薄である。

猪口委員 ほぼ全ての評価項目を最低の 1 点評価とした。館長のリーダーシップが見えず、館の運営方針もはっきりしない。来館者アンケートも不備が見られ、館の運営を良くしようという熱意が感じられなかった。静岡県立美術館と比較すると、お粗末過ぎる。公立美術館としての姿勢を問いたい。

高田委員 太郎と親交のあった村田館長に負う所が大のこの 10 年だった。公営美術館が悪いとは言わないが、美術館協議会の活性化、市職員である副館長の役割、学芸員の働き方、あるいは HP や年報等の改善を含めて、まだまだ魅力ある美術館へと脱皮できるはずである。また、搬入口が狭隘であり、他館からの大型・貴重作品の借入れ展示に際し、搬入出もまともにできない。他館との大型コラボレーション企画展等もままならないのではないかと感じる。早急に改修されるべき。

渡辺委員 川崎市の美術館は、比較的経験の浅い学芸員も多いのではと感じる。館長の意見が全員に行き渡るまで時間がかかるのかもしれない。例えば、市民ミュージアムでは全作品の総図録すら整備されておらず、どんな作品がどれだけ所蔵されているのか把握できていない。

垣内委員 マネジメントの面はいまひとつと感じるが、この美術館の強みは、他にはない岡本作品のコレクション。「岡本太郎」という個性は手放しがたい。予算 1 億円強（人件費を除く）で、あれだけの収蔵品を展示していることを考えれば決して無駄遣いではないと思う。太郎作品や関連アートを、もっとポジティブに捉えて露出を増やしてはどうか。例えば、TARO 賞受賞作品を市役所ロビーに展示したり、体験型アートの取り組みを。

議長 アンケートの活用、館のマネジメント・熱意・姿勢など改善や、今後の館運営の方向性の検討など、事務局で評価書を書き直していただいて、グループ長を中心にまとめてもらいたい。

では、続いて B グループのガラス工芸振興事業を。

事務局 事業目的や芸術性、効率・効果など、全 12 項目（各 4 点満点）の評価点は、行政側の評価が 34 点、委員の平均が 28.5 点となった。委員内部でも、こちらも市民委員（高田委員）が 23 点と一番辛い点になっている。3 段階では、B 改善の評価となる。

自由記載欄の 10 の論点では、東京ガラス工芸研究所の頑張りへの賞賛・評価や、ガラス展展示作品の質の高さ、ガラス体験教室の着眼点の良さなどプラスの評価

をいただいた。一方で、ガラス展の展示方法のつたなさ、告知・広報の少なさ、予算 700 万円という施策展開の中途半端さなどの指摘もあった。また、常設展示やアンテナショップの設置、公共施設での作品の活用、市役所の部局横断的支援体制の構築、人的・組織的・財政的支援の必要性などの提案もいただいた。

また、700 万円という予算規模ではよくやっていると言えるが、一方で中途半端な印象もあり、いずれにしても長期的なビジョンと具体的な計画の策定が必要との意見もあった。

議長 評価書・意見書を出していただいた委員からコメントを。

渡辺委員 民間企業が実施している事業を、芸術的側面から評価するのは難しい。市の施策としては、2 回だけ実施したガラス作品コンペを継続しなかったのが悔やまれる。きちんとしたガラス美術展を実施・継続することで、ガラス作品の質を高めることができる。また、ガラス工芸作品の常設展示及び販売にも力を入れるべき。

城谷委員 評価基準の軸を定めることができなかつたので、感想のみ。市もガラス工房も施策のダイナミックさに欠ける。予算 700 万円では、仕方がないか。

高田委員 700 万円の予算規模では評価のしようがない。ガラス懇談会の議事録も見たが、産業振興にどう繋がっていくのか分からなかつた。市が推進・支援している施策だということを、もっと前面に押し出すなど、露出度を増やしていくべきだろう。ガラス展の展示会場でも作品の購入ができるなど、工夫も欲しい。他都市のガラス工芸はどのような展開をしているのか。

垣内委員 石川県の能登島では、ガラス作品コンペを開催している。ただ観光客増には結びついていない。黒壁で有名な滋賀県長浜市では、ヴェネツィアングラスをイタリアのムラーノから輸入したり、安い工芸品を中国から買い付けたりして、販売している。ガラス工芸のプロデュースの面もある。いずれの都市もかなり力を入れていて、予算も投入している。ガラス作品は手にとって、購入できるのが良いと思う。

高田委員 今後、「かわさきガラス工芸村」といったものを作って、アンテナショップの設置などに踏み出していけばよいのではないか。

議長 中途半端な現状から、もうひとつ施策をステップアップさせる改善のニュアンスでまとめる方向でよいのではないか。工業都市という川崎のアイデンティティとは、ガラス工芸の振興は相性が良いと思う。

議長 二つ目の議題、H24 年度の文化アセス対象事業について。事務局から説明を。
事務局 文化芸術振興計画施策分野別事業一覧をご覧ください。現在 135 事業を対象としており、この 3 年間で 6 事業をアセスの対象としてきた。7 分野あるうちの「1 文化振興」をメインに、「6 文化と経済」から 1 事業を今年アセスしている。

なお、3 つ目の議題「文化芸術振興計画の改訂」と関連するのだが、計画改定に裂く労力を勘案して、H24 年度のアセスは対象を 1 事業のみにしてはどうかと考えている。計画改定は H24 年度中に案を作り、H25 年度に確定させたい。

高田委員 文化アセス 2 件は、取り立てて負担とは感じない。

議長 年間 2 件が最低ラインだと考える。1 件では振興会議がサボっていることになる。この会議のメインはあくまでも文化アセスであって、計画改定は市役所主導

で行い、それに会議が意見を述べるにとどめる形ではないか。

城谷委員 文化アセスの対象事業としては、シティセールス推進事業、市民文化大使事業を挙げたい。

垣内委員 各委員の興味・関心のほかに、行政側の希望も聞きたい。自治体担当者の背中を押すことも役割だと思っている。施策の優先順位を付けて提示してもらえれば。

議 長 各委員が興味のある事業を事務局に提出してもらい、部会で絞り込んだ後に、次回会議で選定したい。(以上で会議終了)